

福祉

社

教

育

# いまこそ 考えよう

福祉ってなんだろう。福祉には、これが正しい、という明確な答えはありません。福祉教育とは、共に生きる「こころ」を育むこと。あいまいで、点数がつけにくく、ペーパーテストで測り難い。教える側、教わる側にとってもやっかいな教科かもしれません。福祉と聞くと、介護をイメージするかもしれませんが、その領域は、教室を飛び出して、どんどん広がっています。いっしょに考えてみませんか。これからの福祉について。社会について。幸せについて。

今とこれからの福祉教育を考えよう

## 福祉教育フォーラム

2024

2/25 SUN. 13:00 start  
@ 昭和女子大学コスモスホール

- 13:10- **第一部** 福祉教育の今とこれから
- 14:40- **第二部** 福祉教育は変わる
- 16:10- **第三部** 令和の幸福論 ～福祉教育は地域を作り、子どもを救えるのか?～

# 福祉教育フォーラム

12:30 開場

13:00 ご挨拶

13:10 プログラム① 福祉教育の今とこれから

原田 正樹氏

日本福祉大学 学長



長野県生まれ。明治学院大学に在学中に障害者運動と出会う。卒業後、重度身体障害者療養施設の職員になり、地元で福祉教育実践を行う。その後、日本社会事業大学大学院で福祉教育を学ぶ。2004年に日本福祉大学に赴任。日本福祉教育・ボランティア学習学会や日本地域福祉学会の会長などを歴任。現在は全国社会福祉協議会ボランティア・市民活動振興センターの運営委員や「広がれボランティアの輪」連絡会議の副会長などを務める。『伴走型支援-新しい支援と社会のカたち』有斐閣、『共に生きること 共に学びあうこと』大修館出版など。

堀田 聡子氏

慶應義塾大学大学院 教授  
認知症未来共創ハブリーダー



中学生の頃より自立生活を送る障害者の介助等に携わり、人と地域がもともと持つ力の回復・再生の手がかりを探りながら対話と活動を続ける。東京大学社会科学研究所特任准教授、ユトレヒト大学訪問教授等を経て現職。博士(国際公共政策)。社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会等において委員。寛裕介著「認知症世界の歩き方」(ライツ社2021)、を監修。アラン・ケレハ著(2022)「コンパッション都市-公衆衛生と終末期ケアの融合」慶應義塾大学出版会を共監訳。

井口 啓太郎氏

国立市民館 館長補佐  
社会教育主事



東京都出身。大学で社会教育主事任用資格を取得後、世田谷区、足立区、国立市で社会教育行政・施設業務に従事。2009年度より国立市民館にて、障害や困難の有無にかかわらず若者が共に学びあう実践「コーヒーハウス」に関わる。2018年度から2021年度にかけて文部科学省へ外出、障害者の生涯学習政策等に携わる。2022年に国立市へ帰任し現職。文部科学省 令和5年度「障害者の生涯学習推進アドバイザー」としても活動中。社会的困難のある人と共にあろうとする社会教育実践の探究をライフワークとしながら、現在東洋大学大学院博士課程で教育学を学び直す。

14:40 プログラム② 福祉教育は変わる

馬場 拓也氏

社会福祉法人 夙川児童会 理事長



1976年神奈川県生まれ。大学卒業後、外資系IT企業を経て、2010年に2代目経営者として現法人に参画。特養の庭を地域開放した「ミノワ座ガーデン」、市民の語り場「あいかむらすらぼ」を運営。2019年に障がいのあるなしによらず共に育ち合うインクルーシブ保育園「カミヤト凸凸保育園plus」を開園。2022年には地域共生文化拠点「春日センターセンター」、洗濯デリバリーサービス「洗濯文化研究所」を開発し、「2023日本建築学会賞(作品)」、「グッドデザイン金賞」を受賞。著書「介護業界の人材獲得戦略(初冬舎)共著」「わたしの身体はままならない(河出書房新社)」「壁を壊すケア(岩波書店)」など。日本社会事業大学大学院福祉マネジメント修士課程修了。

加藤 恵氏

社会福祉法人 半田市社会福祉協議会 半田市障がい者相談支援センター センター長



昭和52年岐阜県下呂市生まれ。日本福祉大学 社会福祉学部を卒業後 平成11年NPO法人ふわりに就職。平成16年 社会福祉法人むそうにて施設長。平成20年 半田市障がい者相談支援センター センター長(平成20年委託相談4人から始まり、平成21年就労相談、平成24年基幹相談。現在は、指定・特定・児童相談事業も含めて18名の相談員4名の訪問員3名の事務員が所属)

松井 恵一氏

北海道札幌西高等学校教諭 / 公民科 / 進路指導部



北海道出身。大学進学後、高校教師を志して教員免許を取得。平成10年に北海道の高校教諭として採用され、農業高校で教員人生をスタートする。このことを契機に教育と社会・学校と社会をどう繋ぐことができるかについて関心を持つ。前任校では、進路指導担当として、学校と社会を繋ぐ取り組み、社会人と学生による講演・対話の会「学びのフローラ」を企画し年間シリーズ化した。社会福祉法人ゆうゆうの大理事長は講演者の一人。現在、「多様な見方・考え方を得ることは、自己肯定感・自己効力感を育成することにつながるのではないか」という仮説のもと、学校教育のあり方を探究している。

林 睦氏

神奈川県立津久井高等学校 福祉科総括教諭・福祉科科長



神奈川県出身。福祉系大学及び通信制大学等で学び、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等を取得。2010年より現在の県立高校で高校教員として福祉教育に本格的に携わる。勤務高校は、神奈川県立高校では唯一の介護福祉士養成校。福祉科で身につけた知識と技術、そして自分、他者を大切に思う心を武器に地域社会や福祉業界で活躍できる人材育成に奮闘中。将来の夢は、卒業生を集めて施設を運営すること。実現にはまだまだ時間がかかりそうだが、卒業生は声がかかるのを待っていてくれる。

16:10 プログラム③ 令和の幸福論 ～福祉教育は地域を作り、子どもを救えるのか?～

野澤 和弘氏

植草学園大学副学長(教授) / 一般社団法人スローコミュニケーション ション代表 / 毎日新聞委員編集委員



1959年 静岡県熱海市生まれ  
1983年 早稲田大学法学部卒業  
毎日新聞入社 東京社会部/夕刊編集部長/論説委員など歴任  
2016年 一般社団法人スローコミュニケーション代表  
2019年 毎日新聞退社 毎日新聞委員編集委員就任  
2020年 植草学園大学副学長(教授)

福澤 信輔氏

文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室



2009年長野県社会福祉協議会入職。ボランティアセンター、地域福祉、福祉人材研修などを担当。社会福祉協議会の元大先輩が語り継いできた「地域福祉は福祉教育ではじまり福祉教育でおわる」を心に刻み、県内各地に訪問し、社協や地域住民の皆さんとの活動や対話を通じて、多様なネットワークづくりに携わる。2022年10月より現職。全国各地の多様な障害者の生涯学習プログラム実践を推進する。障害者の生涯学習を推進する上でも福祉教育は欠かせないと感じ、様々な実践にある福祉教育機能に注目している。

道念 由紀氏

厚生労働省 社会・援護局 総務課 地域福祉課地域共生社会推進室併任 社会福祉専門官



ケアミックス型病院のメディカル・ソーシャルワーカー・介護老人保健施設の支援相談員、地域包括支援センターの社会福祉士として、主に高齢者福祉の領域においてソーシャルワーク実務経験を積む。その後、上智大学総合人間科学部社会福祉学博士後課程期に進学、同学科助教としての勤務経験を経て、2019年4月より現職(2021年4月より地域福祉課地域共生社会推進室併任)。入省後は、福祉基盤課福祉人材確保対策室、生活保護課、地域福祉課地域共生社会推進室にて局内横断的な業務に取り組む。専門はソーシャルワーク論、社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員の資格取得。

FACE to FUKUSHI

一般社団法人 FACE to FUKUSHI

共同代表 大原 裕介  
社会福祉法人ゆうゆう 理事長  
北海道医療大学 客員教授

理事 池谷 徹

17:40 まとめ・振り返りワーク

本プログラムの振り返り及び総括セッションを行います。

18:00 終了

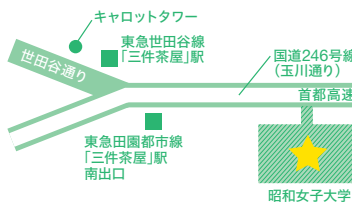
開催場所

昭和女子大学コスモスホール

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7-57

東急田園都市線(半蔵門線直通)「三軒茶屋」駅より徒歩7分

※Googleマップをご利用の場合は「昭和女子大学正門」で検索し「ルート・乗換」をご確認ください。



定員

先着300名

参加費

無料

※定員に限りがありますので、定員に達し次第受付は終了となります。  
※アーカイブ配信も予定しております。詳細は申し込みページでご確認ください。  
※プログラムの内容やスピーカーの方は変更する場合がございます。

詳細・申込

<https://fukuthink2024.peatix.com>

申込〆切 2/21(水) ※定員になり次第受付は終了します。

